

農業でつながろう！事業について

村山 明子
大村市立図書館

1 はじめに

令和元年（2019）10月に開館したミライ o n 図書館は、長崎県立長崎図書館と大村市立図書館が共同で運営する施設区分のない図書館である。高知県にあるオーテピア高知図書館に続く全国で2例目の県市一体型図書館で、収蔵能力は約202万冊と九州でも最大規模を誇る。1階や屋外広場は、人々が集い出逢いにあふれた賑わいの空間として、2階から4階は、本との出逢いや知識を深める静かな空間として整備された。ミライ o n は、大村市の歴史にふれられるシアターや展示室がある大村市歴史資料館と大村市や長崎県の食材を活かしたメニューを提供しているカフェが併設されており、イベントや講座などを開催できる施設と設備も充実している。

当館では、開館当初から大村市や長崎県の各関連機関と連携してビジネス支援をはじめとする課題解決支援サービスを行っている。しかし、農業支援については、他と比べると充実した情報を提供できていないように思う。特に、大村市立図書館としては積極的に取り組んでいないのが現状であり、まずは市役所内の関係部署と連携するための関係を構築していくことが必要不可欠であり、目下の課題でもある。

本レポートでは、手つかずの農業支援について大村市立図書館がどのように取り組めるのか考えてみたい。

2 大村市の現状と課題

大村市は長崎県の中央部に位置し、空の玄関口である長崎空港や市内を南北に貫く高速道路がある。令和4年（2022）9月には西九州新幹線の開業を予定しており、さらに交通の利便性が高まり、ますますの発展が期待されている。現在の人口は97,937人、世帯数は44,822世帯¹である。長崎県で4番目に多い人口であるが、県内で唯一50年以上連続して人口増加が続いているのが本市の特徴だ。

しかし、人口が増加しているにもかかわらず減少しているのが農業人口である。『おおむらの統計』を見ると、平成17年（2005）には1,711戸だった農家数も10年後の平成27年（2015）には1,459戸へと14.7%減少していて、販売農家数も同様に1,167戸から938戸へ19.6%減少している。また、『大村市農業基本計画』を見ると、新規就農者数が10年間で57名増えたのに対して、販売農家の世帯員数は1,766名減少しており、単純に計算すると1,709名の農業者が減少していることになる。さらには、農業就業者の平均年齢も平成17年の62.3歳から平成27年には66.4歳となっており、農業人口の減少とともに高齢化が進んでいることがわかる。特に、農業の将来を担う若手農業者が減少しており、39歳以下

を見ると平成 17 年は 221 人だったのが平成 27 年には 87 人と 130 人以上減少し、減少率は 60%を超えている。

本市では、第 5 次大村市総合計画において、「活力に満ちた産業のまち」を基本目標の一つに掲げている。依然として高齢化や離農などにより農業者数が減少しているため、新規就農者や認定農業者を確保・育成していく必要があるとうたっており、大村市としても早急に取り組むべき課題だと考えている。

27 農家数・人口の推移 (単位:戸、人)

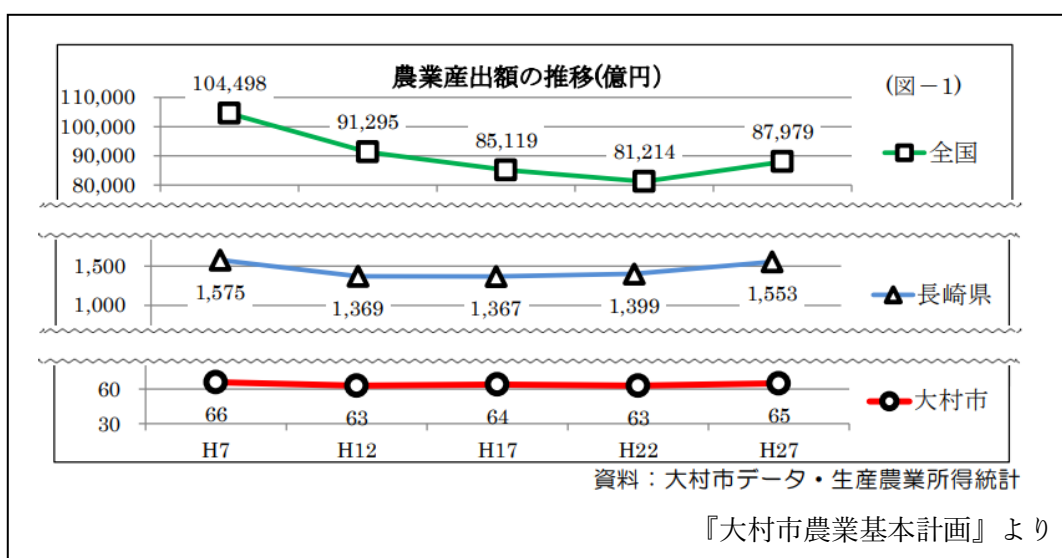
年	農 家 数			農 家
	総 数	販売農家	自給的農家	世帯員数
平成12年	1,750	1,314	436	7,786
17	1,711	1,167	544	6,907
22	1,630	1,066	564	4,252
27	1,459	938	521	3,342
令和2年	1,226	763	463	2,461

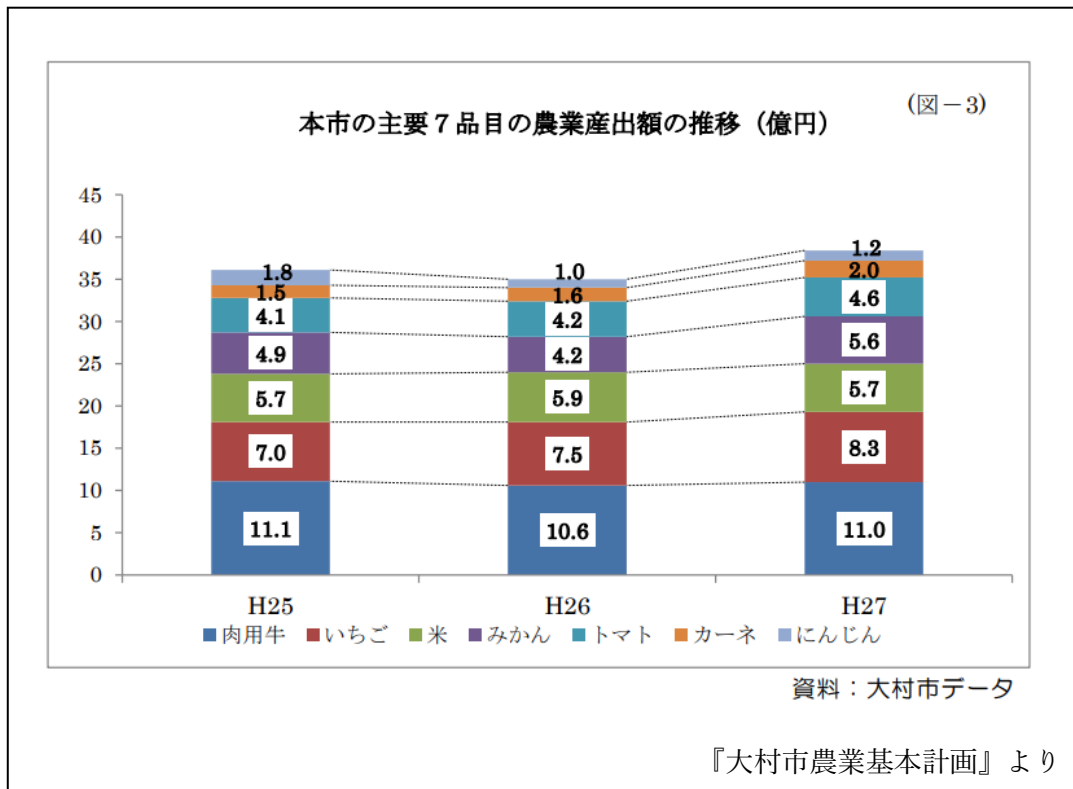
(資料:農林業センサス)

令和 3 年版『おおむらの統計』より

長崎県における農業産出額は、露地野菜や花き、肉用牛などの伸びにより、近年は増加傾向で推移している。本市における平成 27 年の農業産出額は約 65 億円で、過去 20 年間ほぼ横ばいで推移しており、産出額の上位は肉用牛、いちご、米、みかん、トマトである。

また、本市には、身が甘くて柔らかく、ニンジン特有の臭みが少ないという特徴を持つブランド野菜「黒田五寸人参」があり、その味や品質を守るために「長崎県黒田五寸人参原種育成会」が選りすぐりの黒田五寸人参から作った種を都市圏へ出荷し、全国に広める活動を行っている。





3 農業でつながろう！事業について

3.1 概要

本市は人口が増加している一方で、高齢化や離農などにより農業者数が減少しており、新規就農者を確保していく必要がある。知の拠点として市民を支える図書館で、本市の農業や農産物について展示を行い、農業関係者による講演会を開催することで農業の魅力を発信する。

3.2 目的

様々な年代の市民が来館する図書館で農業に関する展示や講演会を開催することで、農業に対する市民の関心を高める。また、農家向け講演会を実施し、農業関係者同士もしくは農業関係者と行政が交流できる場を創出し、図書館を拠点として、農業を通して市民がつながることを目的とする。

効果としては、図書館が農業の魅力を発信し、図書館利用者が地域の農業に接する機会を提供することで、生産者の「顔が見える」環境を作り、地元の農産物への親しみを持つことが期待でき、また、農業関係者の図書館利用を促進する。さらには、農業関係者同士もしくは農業関係者と行政が情報交換を行うことで新しい人脈づくりとアイデアの発見を期待できる。

3.3 対象

本事業は、農業の将来を担う 10～20 代の学生、農業に関心のある方、現在農業に携わっている方を対象として実施する。

3.4 具体策

3.4.1 展示コーナーの設置

館内に常設の展示コーナーを設け、農業に関する図書館資料を展示し、作成したブックリストを配布する。さらに、大村産の農産物や市内在住の農家を紹介するパネルやポップを展示し、関係機関のチラシやパンフレットなどを設置して情報提供を行う。

効果：常設展示を行うことで図書館利用者が地元農業に関心を持つきっかけを提供する一方で、農業者や関係機関へ図書館が行う農業支援について PR できる。

3.4.2 講演会の開催

学生や農業未経験者向け、農業者向けと対象を分けて講演会を開催する。

講演会①

対象：学生や農業未経験者

目的：若者が地元農業に親しみを持ち、自身の将来を考える機会を作る。また、農業に関心のある人へ農業の魅力を伝え、就農への第一歩となるようきっかけ作りを行う。

内容：農家による仕事内容の紹介、ベテラン農業者と若手農業者によるクロストーク、新規就農者による事例発表、農業に関する図書館資料の貸出

連携先：大村市産業振興部、JA ながさき県央

効果：農業者自らが農業の魅力を発信することで新規就農者の獲得を期待できる。

講演会②

対象：農業者

目的：新しい情報の獲得と人脈作りの機会を提供する。

内容：JA ながさき県央職員によるフォローアップ講座、農業者による先進的な取り組みの発表、参加者同士の座談会、農業データベース「ルーラル電子図書館」の紹介

連携先：大村市産業振興部、JA ながさき県央

効果：農業関係機関職員や農業者が交流できる場を提供することで、情報交換や新たな人間関係の構築が期待でき、地元農業の活性化につながる。

3.4.4 大村産農産物を使った商品開発

市内の中学・高校に通う学生から大村産の農産物を使った商品とカフェメニューのアイデアを募集する。

対象：市内の中学校・高校に通う学生

目的：地元の農産物について知る機会を提供し、愛着を持ってもらう。

内容：大村産の農産物を使った商品、カフェメニューを募集するコンテストを開催




- ・商品部門とカフェメニュー部門の2部門構成
- ・選考は、農業関係者、飲食店関係者、観光振興協会、図書館職員などで行う。
- ・各部門のグランプリに選ばれたものは商品化し、ミライオンに併設している Café miraino（カフェ ミライノ）をはじめとする市内事業所等で販売。
- ・募集期間中に、学生たちのアイデアを形にできるようなフォローアップ講座を図書館で開催。図書館の活用方法について説明する。

連携先：大村市産業振興部、JA ながさき県央、大村市内の中学校・高校、大村市観光振興協会、Café miraino

効果：大村産農産物の魅力を学生が発信することで地域で活躍する経営者へ PR できる。

4 スケジュール

下記のとおり、準備期間1年、実施期間2年の3カ年計画で事業を実施する。

具体策	準備期間	実施期間1年目	実施期間2年目
館内展示	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と調整し展示内容の決定 ・市内農業者へ取材等の協力依頼 ・チラシ、パンフレット等の収集 ・予算要求 	<ul style="list-style-type: none"> ・展示の実施 ・次年度に向けて展示内容の拡大や変更の検討 	継続して実施 
講演会	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の選定、講演依頼 ・講師との打ち合わせ ・関係機関と連絡調整 ・予算要求 	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会の実施 ・次年度以降の開催について検討 	継続して実施 
商品開発	<ul style="list-style-type: none"> ・市内中学校・高校、農業関係者、Café miraino 等へ事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンテストの開催 ・各部門グランプリの商品化 	継続して実施 

	内容説明 ・ 予算要求	・ 次年度以降の開催 について検討	
--	----------------	----------------------	--

5 おわりに

私は主にカウンター業務に従事するサービスグループに所属しており、今年度から課題解決支援サービスを担う企画・広域支援グループも兼任している。今年度は医療・健康支援として認知症サポーター養成講座を、農業支援としてニホンミツバチに関する講演会を担当し、もっと課題解決支援サービスについて勉強したいという思いが強くなり、ビジネス・ライブラリアン講習会を受講させていただくこととなった。本講習会では、ビジネス支援の基本からビジネスレファレンスについてや広報活動まで幅広く学ぶことができ、有意義な3ヶ月を過ごした。

コロナ禍ということもあって前回同様オンライン開催だったが、事前に zoom や SNS を使ってグループワークをともにする班員と密にコミュニケーションを取っていたため、講習会当日はスムーズに意見交換ができたように思う。ワークショップでは、提案した企画案に対して他受講生から様々なアドバイスをもらうことで、自分にはなかった視点から企画を見つめ直すことができ、おかげで当初作成していた案よりもブラッシュアップされたよりよい企画案となった。図書館ではチームワークが大事だと以前の上司に言われたことがあったが、改めて実感した。また、普段なかなか交流することのない他地域の図書館員のみなさんと情報交換し、顔見知りになれたことも大きな収穫であった。

常世田理事長がおっしゃっていた「知っていることとわかっていることは違う。知っているだけでは価値がない。」という言葉を胸に、行動に移し、継続して実行することを大切にしながら課題解決支援サービスに取り組みたいと思う。

最後に、コロナ禍で集合型研修の開催が困難な中、本講習会を準備・運営して下さった事務局のみなさま、ご指導いただいた講師の先生方に感謝申し上げます。

【参考文献・URL 等】

(1) 『令和3年版おおむらの統計』

<https://www.city.omura.nagasaki.jp/kanri/shise/shokai/toke/omura/documents/r3oomuranotoukeimatome.pdf>

(2) 『第5次大村市総合計画「後期基本計画」』

<https://www.city.omura.nagasaki.jp/kanri/shise/shokai/shisaku/shisaku/dai5ji/document/s/5jikoukikeikakuzenntaibann.pdf>

(3) 『大村市農業基本計画』

<https://www.city.omura.nagasaki.jp/nougouseisaku/machi/norinsuisan/sesaku/documents/nougyoukihonkeikakuzentai.pdf>

(4) JA ながさき県央 ウェブサイト

(若手農業の取り組み)

<https://www.janagasaki-ou.or.jp/archives/18775/>

(トマトの新品種の試験栽培)

<https://www.janagasaki-ou.or.jp/archives/18611/>

(5) 玖島中2年生徒が「ビジネスプラン」発表 地元の経営者から話を聞くなど準備 大村. 長崎新聞. 令和4年(2022)2月27日, p3

(6) 広島市立図書館ホームページ

<https://www.library.city.hiroshima.jp/index.html>

¹ 令和4年(2022)2月末時点